

巻頭特別企画

FIFA女子ワールドカップ
オーストラリア&ニュージーランド2023 出場

日本女子代表なでしこジャパン
植木理子選手インタビュー

W杯での成長を語る



TOKYO FA's Pick Up

JFA Magical Field inspired by Disney
ファミリーサッカーフェスティバル "First Touch" プレミアム in 東京

SPECIAL INTERVIEW

第38回 日本クラブユースサッカー選手権(U-15)大会
優勝 FC多摩 平林清志監督・吉田湊海選手

GAME REPORT

第28回東京都サッカートーナメント
特別国民体育大会関東ブロック大会

REPORT

2023東京国際ユース(U-14)サッカー大会
東京都シニアリーグ 0-80

新企画 「サッカーライフ」

フットサル委員会運営部会員 辻 誠さん

私たちは 東京都サッカー協会を 応援しています。

初声町和田長浜太陽光発電設備



神奈川県初声町和田(和田長浜海岸側)
2021年4月
取得名義:株式会社スカイ・ランド
(日本水資源開発株式会社関連会社)

人を潤し自然を守る
ECO UP PROJECT

 日本水資源開発株式会社

代表取締役 松永 利明

《東京営業所》

〒142-0063 東京都品川区荏原3丁目2番6号
TEL 03-3477-2477 FAX 03-3477-7661

「はじめてのフィールドに! 特別なフィールドに踏み出そう!」

JFA Magical Field inspired by Disney ファミリーサッカーフェスティバル “First Touch” プレミアム in 東京



主 催：公益財団法人日本サッカー協会

共 催：ウォルト・ディズニー・ジャパン株式会社

主 管：公益財団法人東京都サッカー協会

7月9日(日)、JFA Magical Field inspired by Disney ファミリーサッカーフェスティバル “First Touch” プレミアム in 東京 が味の素スタジアムで開催され、108組 216名(午前の部：55組 110人/午後の部：53組 106人)のファミリーが参加し楽しく汗を流した。



フォトスポットパネルの前で記念撮影



ファミリーでのミニゲーム



ウォーミングアップでも笑顔



思いつきりボールを蹴ってシュート!

サッカーを身近に感じてもらえる機会に



このフェスティバルは「たった一步で、世界は広がる。」をコンセプトに小学校1年生から3年生までのサッカー未経験者、初心者とその保護者のファミリーを対象にJFAがウォルト・ディズニー・ジャパン株式会社との共催で開催。

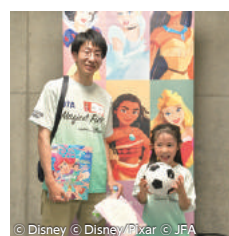
JFAは2015年に女子サッカーの普及と発展に向けた指針『なでしこvision』を発表すると、それを文化にするため3つの目標①サッカーを女性の身近なスポーツにする、②なでしこジャパンが世界のトップクラスであり続ける、③世界基準の「個」を育成するを定める。近年はコロナ禍での影響もあったが、地道な活動が少しずつ実を結び、2022年度末で全登録選手数のうち、女性の登録数は5万807人(6.2%)と増加傾向にある。

日本サッカー協会の福田哲郎氏は「なでしこvisionに基づき、『2030年までに登録女子プレイヤーを20万人にする』。そこにつなげていき、W杯で世界一を目指す強化もできればと思っています。また女性活躍社会の推進やスポーツをする機会を増やすこと、女性がサッカーを楽しむことを応援できるようなプロジェクトにしていきたいと思っています」と話した。

会場の入り口に設置されたディズニープリンセスが描かれたアーチ型のバナーフラッグとバナーが参加者を出迎え、フォトスポットパネルには記念撮影をするファミリーで長い列が出来るとスタート前から盛り上がりを見せていた。また今回の“First Touch”プレミアムは、スタジアムの大型映像装置を使用しプロモーションVTRが流れた。ディズニーの世界観をより一層楽しめるように演出がされている。

イベント参加者たちは、ディズニープリンセスがデザインされたシャツを着用し、初めてのフィールドに踏み出した。スタンドのスクリーンやピッチに置いてあるコーンもディズニープリンセス仕様となっており、集まった子どもたちは大喜び。またFC東京や東京ヴェルディがホームゲームを開催する味の素スタジアムでのプレーは普段は、足を踏み入れることができないこともあり保護者にとっても感動体験につながっていた印象だ。

夢のフィールドには6つのコートが設置され、ファミリーが2人1組となってボールに触れながらのウォーミングアップや動き作りなど、保護者も積極的に参加し取り組んだ。その後はシュートゲームやファミリーでのミニゲームを行うとフィールドのあちこちで笑顔の花が咲いていた。今までサッカーの経験がなくてもサッカーというスポーツの楽しさや面白さを身近に感じてもらったことで、この日が最高の思い出の場になったはずだ。



参加者の城堀さんファミリー

参加者の城堀さんファミリーに話を聞くと「娘が楽しんでいたので嬉しかったですし、これからサッカーをやりたいという気持ちになれば是非やらせたいですね」(保護者)と話す「全部楽しかった。またサッカーがしたいです」(お子さん)と元気に答えてくれた。

日本サッカー協会の高井康隆氏は「サッカーに関心をもってくれる子どもも多かったと思います。『サッカーをした思い出』を家に持ち帰ってくれる印象がありますし、たくさん笑顔を見られたことが良かったと感じています」。今後も全国各地で展開される『JFA Magical Field inspired by Disney』に期待が高まる。



イベント中は笑顔でいっぱい



ゴールが決まり、ハイタッチ!



サッカーボールに触るのははじめてかな?



味スタのフィールドを走り回る

日本女子代表なでしこジャパン 植木理子選手インタビュー

(ウエストハム・ユナイテッドLFC)



——サッカーを始めたきっかけについて教えてください。

植木 兄弟の影響が多い人もいますが、自分は一人っ子なので家族の影響というものはありませんでした。小学校の校庭が広く、昼休みには私を含めサッカーをして遊ぶ子が多く、サッカーが楽しくて小学5年生の時に親に「サッカーをやりたい」と言いました。

——そして東京NB（当時：日テレ・ベレーザ）の育成組織に入り、その後もメキメキと頭角を現していきました。

植木 個人的にはどのカテゴリーでも自分が一番下手でした。毎回、壁にぶつかり周りに助けてもらいながら、ここまでこられた印象です。周りに恵まれる才能はあります（笑）。

——前回のW杯フランス大会では選出されながらも直前に怪我（右膝を負傷）で離脱。今回のW杯2023に懸ける想いはとても強かったと思います。

植木 W杯を掴めなかった悔しさはW杯でしか返せないと思っていました。4年間の積み重ねが、今回の出場に繋がりました。頑張ってきて良かったと感じています。ただ個人的に悔しい大会になったので次のW杯に向けて4年間、頑張りたいです。

——怪我での離脱は本当に辛い出来事だったと思います。

植木 長期離脱ということで何も考えられず、別メニュー調整しながら合宿に帯同していました。フランスへ行く直前に離脱を伝えられた時は、自然に涙が出てくるというか、眠っているのに朝起きたら涙が出てくるような、人生で一番悔しい瞬間でした。

——その状態から立ち直れたきっかけを教えてください。

植木 クラブに戻ってきた時に村松（智子）さんや中里（優）さんがリハビリに励む姿を見て、なでしこジャパンで結果を残している大先輩たちが、「こんなに一生懸命リハビリしている。自分はまだ19歳で、この先、W杯を何度か経験できる可能性があるのに立ち止まる理由もなければ資格もない」と、二人の姿を見て気づかされました。

——それから4年が経過し、今回のW杯の舞台はどのようなものだったのでしょうか？

植木 サッカー界はW杯が一番大きな大会です。各国選手の熱や開催地オーストラリア・ニュージーランドの国中がW杯に注目していることも感じました。そこでプレーする喜びは、ひと握りの選手しか感じられないことなので出場することが出来て本当に良かったと思っています。

——個人としては5試合出場2得点。グループステージのザンビア戦とスペイン戦で得点を記録しました。

植木 もっとゴールを奪えるチャンスもありました。自分が準々決勝スウェーデン戦のチャンスやPKを決めていれば試合展開も変

FIFA女子ワールドカップオーストラリア&ニュージーランド2023で2大会ぶりベスト8入りを果たした日本女子代表。エースナンバー9番を背負いチームの躍進を担ったのが植木理子選手だ。今大会を振り返りやサッカーへの想い、今後について語ってもらった。（取材日：8月23日）

PROFILE

植木 理子 (Riko Ueki)

1999年、神奈川県川崎市生まれ。2012年に日テレ・東京ヴェルディベレーザ下部組織のメニナ・セリアスに加入。2018年にトップ昇格。2019年、国際親善試合フランス戦で、なでしこジャパン初出場。2022-23 WEリーグで14得点を決めて得点王に輝いた。2023 FIFA女子ワールドカップでも5試合出場2得点と活躍。9月12日ウエストハム・ユナイテッドLFCへの移籍が発表された。

わっていたと思っています。そこで決めることがFWの役割だと思いますし、この経験を絶対に無駄にはしません。チームを勝たせるゴールを奪える選手になりたいと思っています。

——グループステージではW杯優勝国のスペインを4-0で退ける結果となりましたが自信になっていますか？

植木 グループステージ1戦、2戦目で先発出場をしていない選手が多く出場し、強豪国に勝ったことは自信につながりましたし、日本らしいサッカーではなかったかもしれませんが、あの粘り強い守備は日本にしか出来ないサッカーだと思うので、良い流れで決勝トーナメントに進めたと思っています。

——グループステージ3戦・スペイン戦でのゴールは植木選手らしい気持ちの入ったシュートでした。

植木 あの位置でボールを持った時に仕掛けるのが自分の良さの1つです。シュートが相手選手に当たりましたが、足を振ることで何かが起きると思いますし、自分で納得のいくシュートが入って良かったです。

——ちなみにスペイン戦前日は誕生日でしたね。

植木 W杯期間中の誕生日ということもあって嬉しかったです。前日も祝ってもらいましたが、「スペイン戦後に勝ってお祝いしよう」とチームメイトが言うてくれて、勝利したことで、次の日にも盛大に祝ってもらいました。誕生日が3日間続いたような感じでした（笑）。多くの方にお祝いをしてもらい幸せな誕生日でした。

——グループステージを突破し、決勝トーナメントではノルウェーを3-1で下しました。そして準々決勝スウェーデン戦（1-2）のPKシーンは、ボールがクロスバーを叩いても下を向かず闘志を燃やしていた印象があります。

植木 その責任を試合終了の笛が鳴るまでに返したいと思っていました。もちろん頭の中は真っ白になりましたが、やることをやってから悔やもうと。それもチームメイトが背中を押し続けてくれたからこそだと思います。



ゴールを決めたスペイン戦



© JFA
コスタリカ戦終了後の集合写真

——結果としてベスト8でしたが、まだまだチームとしての伸び代を感じますか？

植木 もっと上を目指せたチームなので結果には悔しさがあります。ただ良いサッカーをしたことでサッカーファンの間では注目度が上がりました。メダル圏内に行くことで、さらに注目度が上がっていたと思います。結果を出さなければサッカーに興味がない人は見てくれない。もっと上に行かなければいけませんでした。

——強豪国と対戦し、真剣勝負の末に得られた手応えや課題はありますか？

植木 仕掛けの部分やアグレッシブな守備など自分の良さを出した場面はありました。通用する部分も見つかりましたが、決定力やつなぎの部分に課題を感じました。大きい相手に対して出来ることをもっと増やさなければと痛感しました。

——勝ち進むことで強豪国の選手と対戦しますが、相手の力をどう感じましたか？

植木 海外の強豪チームでプレーする選手はクオリティが高く、まだまだ簡単には追いつけないと思いますが、サッカーはチーム競技なので、一人の力が足りなくても、それぞれが補い合えば戦えるということを今大会で証明できたと思います。個人がレベルアップをすれば、もっと上に行けると感じましたし、体格やスピードのある大きい相手に対しても、自分の良さを出し続ける怖い選手になりたいと感じています。

——ピッチ内外、なでしこジャパンの長所を教えてください。

植木 ピッチの中では全員が仲間のために走って戦えるチーム。組織としてタフにハードワーク出来るチームは日本しかなかったと思います。ピッチの外では色々な選手がコミュニケーションを取り、信頼関係があったからこそそのワンチームだったと思います。本当に良いチームで、年齢や所属に関係なくコミュニケーションを取りながら、楽しい時は楽しく、厳しい時には厳しく、そして一丸となり盛り上げることが出来ていたチームでした。結果を出すチームは、そういうチームなので、結果を出して良いチームだったと言いたかったことが本音です。

——現地での日本への応援やスタジアムの雰囲気はどうでしたか？

植木 現地では試合を重ねるごとに日本の国旗を身に付けた方が増えていくのを感じていました。特に準々決勝のスウェーデン戦では終盤に日本コールが起こり、なでしこジャパンの戦う姿を見て、ここまで応援してくださるんだと。街を歩いていても、「君たちのサッカーは素晴らしい」と声を掛けられました。結果が出なかったことは悔しいですが、世界のサッカーファンに興味を持っていただいていることは嬉しいですね。

——W杯で一番印象に残っているエピソードはありますか？

植木 W杯期間中の誕生日ですね。またスペイン戦でハードワークをしながら勝った経験は中々得られないので一番印象に残っていますが、スウェーデン戦の笛が鳴った時のあの感覚は忘れられません。

——10月下旬にはパリ五輪の二次予選がスタートします。

植木 大きな大会に向けて、なでしこジャパンがスタートします。五輪の舞台も日本中が熱中してくれる舞台。そのチャンスを掴むた

めに切符を勝ち取りたいです。

——どんな役割を果たしたいと考えていますか？

植木 ハードワークはもちろん、ゴールを奪うことが一番チームに貢献できることなので頑張りたいと思います。

——得意なシュートの形はヘディングですか？

植木 最近はヘディングのゴールが多く、それは自分の良さでもあります。カットインからのシュートは中学時代からずっと練習しているので試合で出せればと思います。自分には泥臭いゴールが性に合っています。最後に体を投げ出して決めることが自分の良さだと思うので、とにかくゴールマウスにボールを入れたいです。最近では綺麗なゴールを決めると自分でもびっくりします(笑)。



© JFA
途中出場したノルウェー戦

——日本代表を目指す子どもたちにメッセージをお願いします。

植木 自分は小さい頃に東京都トレセンでプレーした経験があります。そこで一生懸命に頑張ってきたからこそ現在があり、プロサッカー選手として大好きなサッカーを仕事にする幸せな環境にいます。小さい頃に頑張ったことは大人になって活かせる。それを証明できるように頑張りたいです。子どもたちには自分の好きなことを見つけて頑張りたい、それがサッカーだったら嬉しいですね。

——最後に植木選手の夢を教えてください。

植木 昔から女子サッカーを広めていくことが夢です。選手にしかできないことがたくさんあると思うので、結果を出し、女子サッカーが多くの人の目に映るように頑張りたいと思っています。

植木選手前所属チームの日テレ・東京ヴェルディベレーザを応援しよう!

2023-24 WE リーグスケジュール (予定)

- 11.12 (日) 14:00 kickoff
WE リーグ第1節 (味の素フィールド西が丘)
vs AC長野パルセイロ・レディース
- 11.18 (土) 13:00 kickoff
WE リーグ第2節 (ゼットエーオリブスタジアム)
vs ジェフユナイテッド市原・千葉レディース
- 11.23 (木) 14:00 kickoff
WE リーグ第3節 (味の素フィールド西が丘)
vs 三菱重工浦和レッズレディース
- 12.09 (土) 14:00 kickoff
WE リーグ第5節 (味の素フィールド西が丘)
vs ちふれASエルフェン埼玉
- 12.24 (日) 14:00 kickoff
WE リーグ第6節 (広島広域公園第一球技場)
vs サンフレッチェ広島レジーナ

*第4節及び詳細は、日テレ・東京ヴェルディベレーザ HP をご覧ください。



2023 東京国際ユース (U-14) サッカー大会



東京都トレセン集合写真

■大会結果

優勝	パルメイラス (サンパウロ)	7位	東京都トレセン
準優勝	宮城県トレセン	8位	ジャカルタ
3位	FC 東京	9位	福島県トレセン
4位	東京ヴェルディ	10位	岩手県トレセン
5位	カイロ	11位	東京都中体連
6位	茨城県トレセン	12位	ニューサウスウェールズ

2023東京国際ユースU-14TSGの目的

昨年に続き、福島県Jヴィレッジで4年ぶりの参加となる海外4チームを含む12チームで開催されました。東京FA技術委員会育成部ではテクニカルスタディグループ (以下TSG) を結成、東京トレセンを中心にプレー分析を行いました。U-14年代は選手自身がサッカーの原理原則を身につけ、ポジション別・ゾーン別にやるべき事を理解しプレーし始める年代です。TSGでは東京トレセンチームを技術戦術的観点から分析、現状の成果と課題を把握し、トレセンコーチがトレーニングに活用する事を目的として実施しました。



東京都トレセン VS カイロ



東京都トレセン VS ニューサウスウェールズ

東京トレセン 選手育成=個の育成

東京FAにおける育成 (トレセン) 活動はU-12からU-16までの5カ年で計画しています。将来に繋がる個を伸ばすU-12年代から活動をはじめ、個をレベルアップさせるU-14年代、そして優れた個を活かして組織の中で闘うU-16年代へと繋ぎ、その後自チームでの活躍から世界へ羽ばたく選手が輩出されることを目指しております。その中でU-14年代ではサッカーの原理原則を理解しプレーする為に、テクニックとオフザボールのクオリティの向上が必須となります。

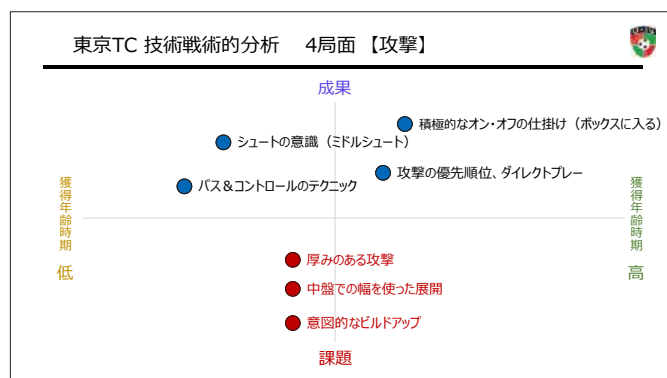
東京トレセン 選手育成=個の育成	獲得年齢時期										
	U-6	U-8	U-10	U-12	U-13	U-14	U-15	U-16	U-17	U-18	
ボールフィーリング											
動きながらのテクニック											
個人戦術											
チーム戦術											
コーディネーション											
持久力											
パワー (スピード・筋力)											
メンタリティ・自立											

東京トレセン 技術戦術的分析 4局面



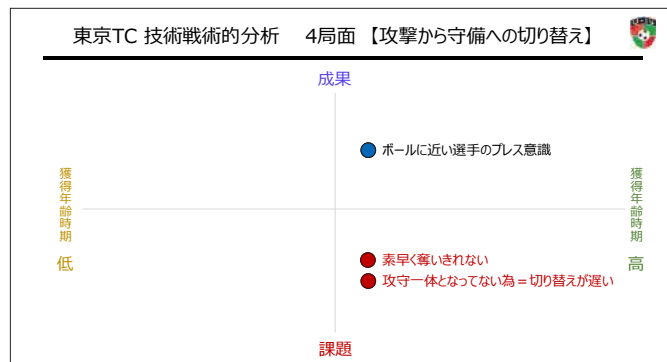
① 攻撃

成果: 攻撃の優先順位を意識したダイレクトプレーが多く見られた。ボックス侵入回数も多く、ミドルシュートを含めたシュートの意識も高い。
課題: ゴール (優先順位) へ向かう意識は高い反面、急ぎすぎるプレーが散見した。意図的なビルドアップ、3ラインで幅と厚みを持った攻撃をする事がゴールに繋がる要素である事を求めたい。



② 攻撃から守備への切り替え

成果: ボールを奪われた直後にボール付近の選手が積極的にボールプレッシャーをかける意識が高い。
課題: 攻撃時に有効な幅と厚みが少ないため、切り替え時に素早いプレッシャーをかける事ができない場面が見られた。



③ 守備

成果: 高い位置からの規制 (前線の選手) でボールを奪う意識が高い。ゴール前ではGKとFPが連携して粘り強い守備を行っていた。
課題: 高い位置からボールを奪う意識は高いが、チームとして連動が少なく、いつどこで誰がどのように奪うかの共有が取れていない場面が多かった。また、相手のダイレクトプレー、特にロングボールに対する最終ラインのリスクマネジメント、正しいポジションを取り続ける事が出来ていない場面があった。

U-14年代のスタンダードチーム【パルメイラス_ブラジル】

選手16名全員が【当たり前のプレー】を【当たり前】に実行していた。

〈攻撃_ストロングポイント〉

個や少人数で局面を打開し積極的にゴールを目指すプレー。

個のテクニックが高く、どのポジションの選手も常にゴールを意識したプレー。

〈守備_ストロングポイント〉

フェアにプレーしゾーン別・ポジション別に適した対応とハードワーク。

チャレンジ&カバーを忠実にやり、守備の原則である中央を意識した守備。

〈切り替え_ストロングポイント〉

役割を理解、守備から攻撃・攻撃から守備時に素早く自身のポジション/危険・チャンスなポジションを取り続ける。

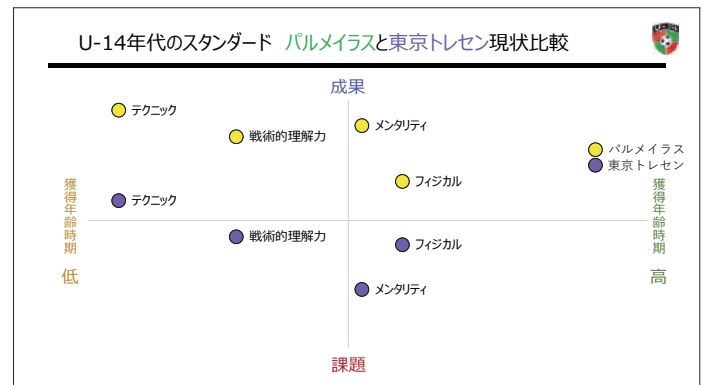


FC東京 VS パルメイラス



宮城県トレセン VS パルメイラス

U-14年代パルメイラスと東京トレセン現状比較



指導者(トレセンコーチ)の役割

トレセン活動の目的である【個の育成】をより充実した活動にしていけることが大切です。その為にもトレセンコーチが日々研鑽し続け、情熱を持って活動に取り組む必要があると、TSG活動を通じて再認識しました。

「学ぶ事をやめたら、教える事をやめなければならない」

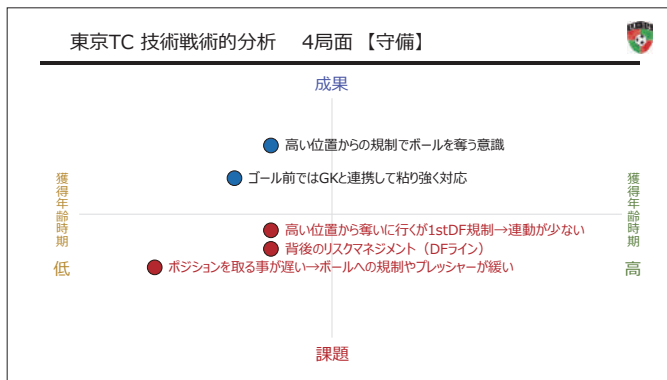
ロジェ・ルメール (元フランス代表監督)

総括

大会がJヴィレッジに移り2年目。昨年以上に攻守において良いプレーが見られるようになりました。これはゲーム環境の整備と指導者のレベルアップの成果と言えます。参加チームには随所に素晴らしいプレーを見せていた選手が存在し、将来が楽しみだと言えます。しかしU-14年代で獲得しておかなければいけないテクニック/戦術理解/メンタリティ/フィジカルが改めて必須と大会を通して感じました。今大会に参加したパルメイラスの選手を目の当たりに出来たことはとても貴重な経験であり、世界に羽ばたく選手を輩出するために、選手・指導者共々さらなるレベルアップが必要不可欠です。東京FA育成部としても基準を高く、日常のトレセン活動に還元できるように努めていきます。

ATARIMAEを追求します。

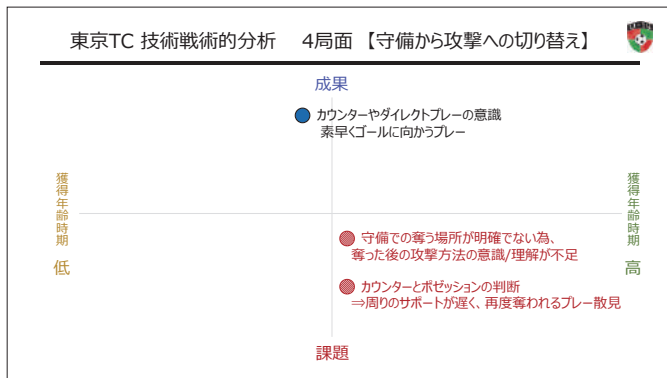
報告者 東京FAテクニカルスタディグループ



④ 守備から攻撃への切り替え

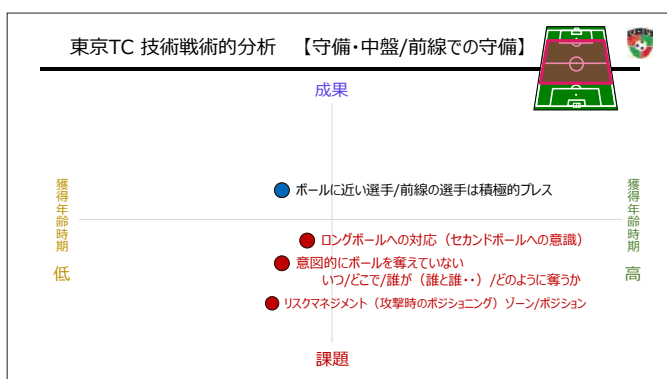
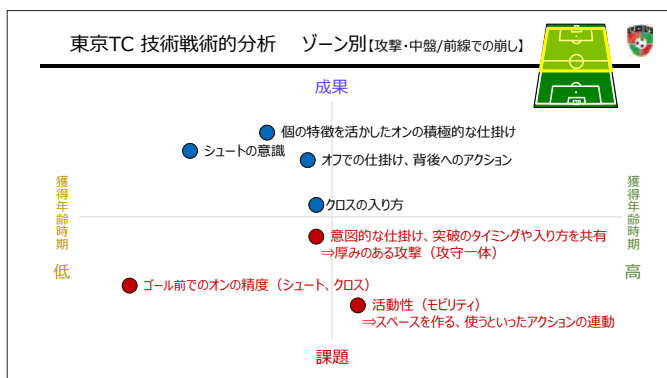
成果: ボールを奪った後に素早くゴールへ向かう、カウンターやダイレクトプレーの意識は高い。

課題: 守備でのボールを奪う場所が明確で無かったため、奪った直後の攻撃方法の意識や状況把握が不足していた。



東京トレセン 技術・戦術的分析

【攻撃・中盤/前線での崩し】【守備・中盤/前線】





東京都シニアリーグ O-80 生涯スポーツとしてのサッカー 「Soccer For Life」



今春からO-80（80歳以上）の選手によるサッカーリーグが創設。そこで今回は、プレーする選手や事務局のみなさんにお話を聞きました。

いつでもエンジョイという名の笑顔が咲く

初夏の日差しが照り付ける中、「もっと寄せろ」、「走れ、遅いぞ」、「ナイスゴール」と言う声が駒沢オリンピック公園総合運動場のピッチに響き渡る。

球際に競り合い懸命にボールを追うだけでなく、連携しながらパスをつないでいく円熟味あるプレーも披露する。これら軽快なプレーを見せているのは、すべて80歳以上の選手たちである。

東京都シニアサッカー連盟は、20年以上前にO-60（60歳以上）のリーグを創設し、そこからO-65（65歳以上）、O-70（70歳以上）、O-75（75歳以上）のクラスと続き、今春からO-80（80歳以上）の選手によるサッカーリーグ（全12節）を発足させた。

東京都シニアサッカー連盟の青山哲司常任委員は「それぞれの年代別クラスが創設され、シニアリーグの先駆者となった方々が80歳を迎えたこと、世代分けを求める多くの要望もあり、その流れでO-80リーグの創設となりました」と話す。

メンバーには元レーシングカー設計者の塩澤進午（93歳）を筆頭に約70名が所属。10代からプレーを続けている人、退職を機にピッチに戻ってきた元サッカー少年や日本サッカーリーグで活躍した人など多士済々だ。年齢や力のバランスを考慮し3チーム（レッドスター、ホワイトベア、ブルーハワイ）に分けられている。気になるルールだが、Jリーグが規定するいわゆる通常のピッチと同じサイズ。交代人数制限なしで15分ハーフの試合が行われる。なお怪我や事故防止のため過度な接触プレーは禁止されている。パンツが金色の選手は80歳以上、紫色は85歳以上の選手に着用することが認められており、年長者へ敬意を払う恰好となっている。



元日本代表の野村六彦さんは「サッカーは人生の一部」

野村六彦さん（83歳）は、元日本代表で日本サッカーリーグ初代得点王でもある。現在は中盤でピッチ全体を俯瞰しながら、危険なエリアやチャンスとなる局面に顔を出しゲームをコントロールする。「私は70歳からシニアリーグでプレーをしています。体が動いていることで楽しくプレーできています。参加する以上は勝ちたい気持ちが強いので

すし、相手からゴールを奪いたい。試合後は、みんなとワイワイと会話をすることを楽しみにしています」と笑顔で話す。そして「仲間と顔を合わせて元気にプレーすることでコミュニケーションも生まれますし、サッカー・フォー・ライフですね」と、付け加えた。

石田紘三さん（83歳）は元エンジニア。ピッチに立てば何度も上下動を繰り返すダイナモそのものだ。これまでサッカー経験はないが、息子さんがプレーするチームで球拾いをするうちに、自然と自分でもプレーするようになり46歳から本格的に始めたとのこと。「サッカー以外にも、朝晩ランニングで体を鍛えていますし、週4回はグラウンドに出て練習をしています」と体力維持の秘訣を教えてくれた。



46歳からサッカーを本格的に始めた石田紘三さん（写真右）

試合が終われば気の合う仲間とプレー談義に盛り上がり、「今日も楽しかったと仲間に言えますし、自分にも言える。それが幸せです」と家路に就く。健康増進だけでなく、サッカーを通じて結ばれた人たちがコミュニティを築く交流の場になっており、元気の源になっていることは間違いない。ここではいつでもエンジョイという名の笑顔が咲いている。

人生100年時代と言われている今だからこそO-85（85歳以上）のリーグが創設される日もそう遠くはないだろう。

東京都シニアサッカー連盟 青山哲司常任委員

ここでプレーする皆さんは70歳、80歳になっても、もっと上手くなりたいという人がたくさんいます。知り合いが増えることで交流も深まっていると感じています。定期的に練習会を設けていますが、中には週5トレーニングをしている人もいて、皆さんはこだわりを持ってプレーをされています。良い意味でサッカー馬鹿になられています（笑）。これからも健康増進のため、生涯スポーツとしてのサッカーをいくつになられても楽しんでいただけたらと思っています。



繋がり的大事に、クリアソン新宿が初優勝 「クリアソンを振る舞う」 第28回東京都サッカートーナメント



第28回東京都サッカートーナメント決勝

明治大学 0 - 1 クリアソン新宿

0 (前半) 1
0 (後半) 0

得点者：10分 岡本 達也(クリアソン)

主催：(公財)東京都サッカー協会 共催：東京新聞・東京中日スポーツ、共同通信社 日時：2023年5月7日(日) 会場：味の素フィールド西が丘

「戦う、走る、声を出す」クリアソン新宿が 大事にしていることを徹底して明治大学に勝利



ミラーゲームで中盤でも激しいマッチアップが展開

強豪・明治大学を下して、クリアソン新宿が初優勝。「クリアソンとして、しっかりと「クリアソンを振る舞おう」ということをみんなで約束して、今日の決勝を迎えて、実際試合が始まってからも明治さんはやっぱりすごいなと思うながらも、それに負けず選手たちは頑張ってやってくれた。優勝できたことでクリアソンの大きな歴史の1ページを開くことができた。選手たちがそこに向けて頑張れたことを誇りに思います」。指揮を執った北嶋秀朗ヘッドコーチはそう言って選手たちを称えた。

想定していた4-4-2ではなく、4-3-3のミラーマッチで仕掛けられ「想定外」の部分もあったが、選手の位置をずらしたり、後ろの関係性をずらしたりしながら落ち着いて対応。10分には主将のMF池谷友喜を起点にした攻撃で、右WBの澤井直人からのクロススをベテランのMF岡本達也がヘディングで決めて先制点を挙げた。

後半も押し込まれる展開が多かったが、徹底したのは冒頭の「クリアソンを振る舞う」ということ。「戦う、走る、声を出す。これがクリアソンの大事にしていることで、どんな時だって繋がり的大事に、そういったことをやり続けるのがクリアソンのいいところ。きつい時に隣の仲間と肩を組んで前に進むんだとか、どんな時も手離さないとか、そういったものを出そうぜと話してはいて、もう最後はヘロヘロでしたけど、それでもああやってみんなで身体を張って守ってくれた」と北嶋HC。池谷は「勝ったこと以上に、自分たちが熱を持っていたとか、感動していたとか、味方のプレーにすごい奮い立たせてもらっていたとか。それが本当に勝った要因ですし、今日の試合をやって本当に良かった」と歴史的な勝利に目を細めた。



岡本達也が貴重な決勝弾を決める



初優勝を果たしたクリアソン新宿

いたくさんの方々が来て、応援してくださっていたのでその人たちと、仲間と、喜びを分かち合えた瞬間はやっぱり最高でしたね。73分の交代の際は応援に詰めかけたサポーターに深く一礼し、ピッチを降りた。

2015年の加入で、この日出場メンバーの中ではMFの剣持雅俊、GKの阿部雄太に続く古参。「今日は感慨深いものがある。まだまだ目指すところは先にあるんですけど、ただやっぱり自分たちで新しい歴史を作れたというのは特別な気持ち」と話す。

昨年はなかなかゴールを奪えず、本人にとっても苦しい1年に。そんな中で今大会ではトーナメント初戦の法政大学戦で先制点をあげた。「PKではあったんですけど、自分の中でやっぱりひとつ取れたというのは、すごく前向きな気持ちになることができて、次は流れの中からというのは自分の中でもすごくあった。正直去年はめちゃくちゃ苦しかったんですけど、そこで逃げなかったから今日があるなという風に思えると、それはそれで長い人生で見た時に良い経験だったかなと思います」と言って最高の笑顔を見せた。

明治大学は「最強の布陣」で臨むもゴールが遠く

明治大はミラーゲームの中で主導権を握りに行ったが、最後の部分で決めきれずに涙を吞んだ。この日は普段の4バックではなく、相手と同じ4-3-3に。「明治としては一番攻撃力のあるメンバー」と栗田大輔監督も話す、「最強の布陣」で一番に臨んだ。

10分に失点した後も、攻守の切り替えの速い展開となる中で主導権を握ってプレー。39分にはFW太田龍之介がネットを揺らしたが、直前のプレーがファールの判定となり、無効となった。終盤も形を変えながらゴールを狙ったが、相手の粘り強い守備の前に最後までネットを揺らすことができず。攻め込んだ中で主将のDF井上樹は「得点に直結するようなプレーだったり、その回数というのは少なかった」と唇を噛んだ。



明治大学もFW中村草太らの強力3トップで迫る

「逃げなかったから今日がある」 苦しんだベテランFW岡本達也が大仕事

クリアソン新宿を初の天皇杯に導いたのは在籍8年目のベテランFW岡本達也だった。10分、右WBの澤井からクロスが入ると、岡本はニアに飛び込んだFW樋口裕平の背後を取る老獪な動きでゴール前に入り、ヘディングで得点。これが結果的に決勝点となった。

「チームみんなでここを掴み取ろうと話をしていて。前半の割と早い時間だったので良い流れを作れたかなというところと、この雨の中でもす

天皇杯JFA第103回全日本サッカー選手権大会1回戦
2023年5月21日 13:00 KickOff いわぎんスタジアム

いわてグルージャ盛岡 (岩手県代表) 4 - 0 クリアソン新宿

2 (前半) 0
2 (後半) 0



少年男子、少年女子が本大会出場を決める

特別国民体育大会関東ブロック大会

主催：(公財)日本スポーツ協会、埼玉県、関東ブロック各都県（群馬県・東京都・神奈川県・山梨県）、各県教育委員会（茨城県・千葉県・栃木県）、
関東ブロック各都県体育・スポーツ協会、関東ブロック各実施競技団体、埼玉県会場地市町
期日：2023年8月14日（月）、8月15日（火）、8月19日（土）、8月20日（日）
会場：埼玉スタジアム第2・第3グラウンド、熊谷スポーツ文化公園陸上競技場、熊谷市スポーツ・文化村「くまびあ」

「特別国民体育大会関東ブロック大会」が埼玉県内で行われ東京都代表は、少年男子、少年女子が10月に開催される「2023 特別国民体育大会燃ゆる感動かごしま大会」への出場を決めた。各カテゴリーの戦いぶりを振り返る。

少年男子

東京のプライドと自覚、責任を持って目指すは日本一



栃木戦でハットトリックを決めた前田勘太郎

力のある選手たちが融合して、本国体への出場権を掴み取った。少年男子は決定戦で栃木県と対戦。21分、30分とFW前田勘太郎（横浜FCユース）がゴールを決めてリードを奪うと、後半も攻め手を緩めず51分にMF今井宏亮（東京ヴェルディユース）がクロスから追加点。53分にはこの世代の中心選手のMF仲山獅恩（東京ヴェルディユース）を起点にして、今井のクロスを前田が決めて勝利を決定的にした。前田はこの日ハットトリックの活躍。「常に相手にとって怖い存在であり続けたい」というFWは得意の背後への抜け出しを武器に試合を通じて相手に脅威を与え続けた。

石川創人監督は今年の代について「個性の豊かな代」と話す。40人ほどのラージグループの中で「特に個性が際立つ選手」を選出。前田や仲山に加えて、DF田中玲音（東京実業高校）は187cmの長身で、両足でも蹴ることができて推進力もある選手。1年生ながら8月の日本クラブユース選手権U-18大会では主力として準優勝に貢献して力をつけたMF鈴木楓（FC東京U-18）など、実力派が揃う。当初はなかなか息も合わず、練習試合などで負けることも多かったというが、クラブユース



中心選手の仲山獅恩がゲームメイク

本大会出場決定

ス選手権組などが合流して行われた8月の大阪合宿では「オフのところから会話する機会が多くなって仲が深められた」（DF佐々木将英主将＝FC東京U-18）というように、コミュニケーションを積極的に図りながらチームの団結力もアップ。そういったチームの雰囲気良さが試合での大勝にも繋がった。

個の能力も高く、東京開催だった2013年大会以来となる日本一も十分に狙えるチーム。石川監督は「本大会に向けてもう一度しっかり選手を見極め、再度競争し合いながら鹿児島に向けて良い準備をしていきたいと思います」と意気込む。仲山は「東京のプライドと自分たちが選ばれている自覚と責任を持って、固くなりすぎず、リラックスしながらプレーして、良い意味で相手をおちょくる、楽しくプレーして相手が東京とやりたくないと思うくらいのレベルでやっていけばほぼ負けることはないと思う。狙うのは日本一」と力強く語った。



個性豊かな選手が集まった少年男子

試合結果

代表決定戦

東京都 4-0 栃木県

得点者：21分、30分、53分 前田勘太郎、51分 今井宏亮

TOPICS

JFA第28回全日本フットサル選手権大会

優勝…フウガドルすみだ

JFA第28回全日本フットサル選手権大会は3月19日（日）に駒沢オリンピック公園総合運動場体育館で決勝戦を行い、フウガドルすみだが湘南ベルマーレを破り、14年ぶりの日本一に輝いた。試合は第1ピリオドに湘南が先制。追いかける展開となったすみだは第2ピリオドの34分に星龍太が同点ゴール。延長戦に突入すると、第2ピリオドの48分に清水和也が決勝点を決めて勝利した。

第47回日本クラブユースサッカー選手権（U-18）大会

準優勝…FC東京U-18

第47回日本クラブユースサッカー選手権（U-18）大会は8月2日（水）に味の素フィールド西が丘で決勝戦が行われ、FC東京U-18はガンバ大阪ユースに3-3の末、PK戦で敗れた。試合は点の取り合いの展開となった。2-2でアディショナルタイムに入ると、ガンバ大阪が勝ち越しゴール。しかし、その直後にFC東京も同点ゴールを決めて延長戦に突入した。試合はPK戦での決着となり、FC東京は、4-5で敗れて惜しくも準優勝となった。

JFA第10回全日本U-18フットサル選手権大会

優勝…フウガすみだフルコンズ

JFA第10回全日本U-18フットサル選手権大会は、8月6日（日）に浜松アリーナで決勝戦が行われ、フウガすみだフルコンズが、前回王者のベスカドーラ町田U-18を1-0で破り、初優勝を果たした。決勝戦は緊迫した展開となった。第1ピリオドを0-0で折り返すと、第2ピリオドの34分に、すみだの石井想一郎が先制点を決める。その後、町田も攻撃の手を強めるも、すみだが最後まで体を張った守備で守り切った。

第5回日本クラブユース女子サッカー大会（U-18）

優勝…日テレ・東京ヴェルディメニナ

第5回日本クラブユース女子サッカー大会（U-18）は8月7日（月）にアーステア敷島サッカークラウド場で決勝戦が行われ、日テレ・東京ヴェルディメニナが、セレッソ大阪ヤンマーガールズU-18（関西・大阪府）に1-0で勝利して、初優勝を果たした。決勝戦は、開始早々の3分に式田和が中盤の深い位置でボールを受けると、50m近くドリブル突破で独走をしてゴールを決める。これが決勝点となった。

少年女子

今年も粒ぞろいのチームが本大会2連覇を目指す



神奈川戦で勝利に導く2ゴールを決めた末岡美嘉

厳しい環境の中でも示してくれた結果、PKでも強気で、前向きなPKができたからこそその結果だったと思います」(野田明弘監督)

PK戦ではGK辛嶋心結(十文字高)が躍動した。「PKは何度も練習していて、練習の時もコースは読めていた」。GKコーチからも「自分が思った通りに自信を持って飛べ!」と言われていたという守護神はプレッシャーを跳ね返すように相手の後攻1本目を完璧に読み切ってシュートストップをすると、さらに仲間からの声援をエネルギーに変えて3本目も阻止。対す



山梨県との試合ではスコアレスからのPK戦を制した

る東京はキッカー4人全員が成功させて本国体への切符を掴んだ。

少年女子は昨年からスタートしたカテゴリーで、東京はその第1回大会で日本一に。野田監督は昨年スタッフとしてその場を経験。「ミニ国体で終わると本国体に出るとでは全然違う。

本大会出場決定

本国体に出て、選手が成長して、それぞれのチームで核となり選手権に出たり、クラブの全国大会に出て行くところを見ているので、本大会に出ることで選手の成長に繋がるのは去年から見ていて感じますね」と、まずは本大会出場を決めたことを喜んだ。今年もキャプテンのDF本多桃華(十文字高)や優れた身体能力を持つ伊勢、中盤で攻守のキーマンとして活躍が期待されるMF川口歩奏(十文字高)など、選手も粒ぞろいで大会連覇も期待したいチーム。本多選手は「さまざまな環境、監督や保護者の方にも感謝をしながら、本国体ではまずは1勝ずつ勝ち進んで、結果的に2連覇というところを目標にやっていきたい」と意気込みを語った。



本大会2連覇を目指す少年女子



通過認定証を受け取り笑顔の本多桃華キャプテン

試合結果

1回戦

東京都 3-0 神奈川県
28分、35分 末岡美嘉、50分 伊勢はな

代表決定戦

東京都 0(4PK1) 0 山梨県

成年男子

神奈川戦で逆転勝利も 茨城にPK戦で敗れて本大会出場を逃す



神奈川戦で逆転ゴールを決めた上村尚輝

後半はラインコントロールやビルドアップの部分などを確認。その上で「しっかりボールを取めて、判断してやった方が良く、後半は少し落ち着いて入らせたので、そこは大きかったと思います」。後半は暑さで相手のペースが落ちたこともあり、リズムを握ると42分、MF小松聖音(東京海上

成年男子は惜しくも本国体出場を逃したが、1回戦の神奈川戦では先制されながらも粘り強く戦い、逆転勝利を飾った。立ち上がりは固さもあり、なかなか中盤でボールが収まらなかった。逆に序盤からアグレッシブに神奈川に押し込まれる中で28分に先に失点をした。「リスクを負わないと、責任を負わないのは違うよ」(山口遼監督)。と、飲水タイムではスタッフ陣からの機も飛んだ。



猛暑の中、2日連続試合を戦った成年男子

フットボールクラブ)の左コーナーキックからの混戦をMF瀬川泰樹(東京ユナイテッドFC)が決めて同点に。これで勢いに乗ると、47分にFW宮田輝(東京ユナイテッドFC)の縦パスに抜け出したFW上村尚輝(東京ユナイテッドFCプラス)が決勝ゴールを奪った。上村はチームに体調不良者が出たことにより、急きょその週に緊急招集。この日はビハインドの状況で出場した中で「やるしかないと思っていた。チームを救う1点を取れて良かった」と笑顔を見せた。その後も国体に向けて特に注力してきたという守備で中を固く守って、逆転勝利を飾った。

代表決定戦では初戦シードの茨城県と対戦。先に点を許した中で66分にMF関口崇太(東京ユナイテッドFCプラス)のアシストからベテランのMF小松が決めて同点に追いつく。2戦連続の逆転勝利と行きたいところだったが、PK戦で敗れ涙を吞んだ。主将の最年長、DF長井章浩(エリース東京FC)も「徐々にできてきたところもあったので、ミニ国で終わってしまうのはもったいない」と話していただけに、悔やまれる敗戦となった。



サイドを突破する関口崇太

試合結果

1回戦

神奈川県 1-2 東京都
得点者: 42分 瀬川泰樹、47分 上村尚輝

代表決定戦

茨城県 1(5PK4) 1 東京都
得点者: 66分 小松聖音



第38回日本クラブユースサッカー選手権(U-15)大会 FC多摩ジュニアユース優勝インタビュー

第38回日本クラブユースサッカー選手権(U-15)大会の決勝が8月24日(木)に帯広の森陸上競技場で行われ、FC多摩ジュニアユースがソレソ熊本(熊本県代表)と対戦し、2-1で逆転勝利し、初優勝を果たしました。また、今大会が名前を変えてから初めての街クラブによる大会制覇となります。優勝の喜び冷めない中で、平林清志監督とキャプテンの吉田湊海選手にお話を伺いました。



大会27得点と吉田湊海を中心とした攻撃的なサッカーが光る

——全国優勝から数日経ちましたが、実感は出てきましたでしょうか。周りの方々からお祝いのメッセージをいただいたのではないのでしょうか

平林監督:全国優勝という目標を掲げて臨みましたが、実際に日本一になったという実感はまだあまり湧いていません。多くの東京都連盟のチーム関係者から「おめでとうございます」というお祝いのメッセージをいただき、帰ってきてから少しずつ実感が増してきたところです。

——決勝戦ではボール支配率で圧倒的でしたが、先制点を許す展開となりました。その際に緊張感を感じましたか

平林監督:もちろん決勝戦という状況で緊張感はありませんし、選手たちにも緊張が見られましたが、特に先制されても焦ることなく、試合全体を通じて自分たちのサッカーを最初から最後までするように伝えてきました。負けても後悔のないよう、自分たちのサッカーを信じてプレーしようと考えていましたので、後半に入っても冷静に対応しました。

——77分に加藤歩真選手と伊達煌選手を投入し、その2人のプレーで逆転しました
平林監督:加藤選手については予選からスタメンで起用しており、流れを変えたいと考えて彼を投入しました。伊達選手に関しては、関東大会では出場していましたが、大会に入る前に怪我をしてしまい、調子が十分ではなかったため、途中からの出場となりました。元々スタメンの彼らを後半に投入することで、力を発揮してくれると期待しており、その通りの結果となりました。

——2回戦では名古屋グランパスU-15に4-3で、準々決勝ではヴィッセル神戸U-15に2-1で、そして準決勝では鹿島アントラーズジュニアユースに4-3で、強豪相手に点を奪い勝ち抜きました。今大会は8試合で27得点と、攻撃的なサッカーが光りました

平林監督:我々は基本的にボールを保持し、主導権を握って試合を進めることを大事にしてきました。そして、1試合ずつ戦っていく姿勢を持ち続けてきました。今大会に向けて、吉田湊海選手をトップ下に起用することを決めました。彼は元々センターバックの選手でしたが、その能力を前で活かせるかと判断し、ボランチの位置に配置しました。関東大会ではアンカーとしてもプレーし、チーム全体として彼を固定しきれませんでした。全国大会に向けて彼をトップ下に置き、その結果が今回の成功につながりました。

——クラブとしては2019年にクラブユース選手権でベスト8に進出し、2020年のU-15高円宮杯では3位になるなど、着実に力をつけてきました

平林監督:1年生から2年生、3年生へと段階的に進化するための準備が整ってきました。選手たちに対して、年ごとに適切な課題や指導内容を提供し、チーム全体で成長してきたと実感しています。

——6、7年前、MF大関友翔選手(現・川崎F)たちの代からサッカーの指導方法が変わったと聞きますが

平林監督:指導方法を変えたわけではありませんが、選手たちの特徴が変化することが影響していると思います。以前の代から比べて、平均的な選手が増えたと感じます。選手たちに無理にドリブルをさせるとミスが増え、メンタル的にも負担がかかることがわかりました。そのため、チーム全体でできることを重視し、その後に個々のスキルを磨くアプローチに切り替えました。これまで中学1年生の段階で個性を重視して指導してきましたが、中学2年生、3年生の段階では止める、蹴る技術などを重点的に行い、個々の特長を伸ばす方針を採用しました。これにより、選手たちがストレスなく成長できると考えています。

——今後、クラブはどのようなことを目指していきますか

平林監督:選手たちが一生涯サッカーを楽しむために、技術の向上を重視したいと考えています。プロ選手になる可能性のある選手もいれば、そうではない選手もいるでしょうが、年齢が上がっても技術があれば30代、40代でも楽しんでプレーできます。技術向上によって、プロ選手の夢を追う選手が出てくることも期待しており、

技術指導を大切にしつつ進めていきたいと考えています。

——吉田湊海選手は今大会でMVPと得点王に輝きましたが、大会を振り返っていかがでしょうか

吉田選手:関東大会から常に得点王を狙ってきましたが、全国大会でその目標を達成できて嬉しいです。最初はなかなか得点が挙げられず、どうなるか不安もありましたが、決勝トーナメントでのアントラーズ戦のハットトリックを通じて自信を持つことができました。MVPに選ばれるとは思っていませんでしたが、選んでいただけて嬉しいです。

平林監督:予選から多くのチャンスがありましたが、初めは緊張から力んでいました。しかし、試合を重ねるにつれて徐々にリラックスしてプレーできるようになり、得点も入るようになりました。特にヘディングでの得点が決まってから、彼の気持ちが楽になったのかもしれない。

——街クラブとしての初優勝を果たしましたが、どうでしょうか

吉田選手:Jクラブの環境は優れていると思いますが、私たち街クラブが自分たちのサッカーでJクラブに勝つことは、楽しいです。

——決勝戦では先制点を許す展開から逆転する展開となりましたが、どのようなことを思いながらプレーをしていましたか

吉田選手:前半はボールを保持していましたが、ゴールに迫るシーンには至らなかった。ハーフタイムで改善策を話し合いました。私自身も得点を狙っていましたが、センターバックが強く守ってきたので、自分がセンターバックを引きつけて、他の選手がフリーになるように心がけました。その結果、得点へ繋がるプレーにつながったと思います。

——FC多摩に入団してから成長したと感じる部分はどのようなところですか

吉田選手:元々は守備的な選手だったので守備面では自信がありましたが、攻撃面でのドリブルなどは苦手だったと思います。FC多摩に入団してからは、技術面などが少しずつ成長したと思います。

——今後の目標について教えてください

吉田選手:日本代表として世界で戦える選手になりたいです。

——最後に監督からのメッセージをお願いします

平林監督:大会中は自分たちのことで精一杯で、選手たちのコンディション調整と試合への集中が最優先でしたが、優勝できたことは非常に嬉しいです。今後もこれまでと変わりなく、リーグ戦に向けて1試合ずつ全力で戦い続けていきたいと思っています。



チーム全体で戦って全国制覇を勝ち取った メンバー外の選手等もスタンドから声援を送った



大会結果

グループステージ Cグループ	vs セレッソ大阪 西	△ 3-3
	vs ヱィクサーレ沖縄	○ 4-1
	vs アスルクラロ沼津	○ 6-1
ラウンド32	vs リップエース	○ 2-0
ラウンド16	vs 名古屋グランパス	○ 4-3
準々決勝	vs ヱィッセル神戸	○ 2-1
準決勝	vs 鹿島アントラーズ	○ 4-3
決勝	vs ソレソ熊本	○ 2-1

サッカ

～サッカーファミリーのサッカーライフを紹介～

たくさんの人に支えられている TOKYO FOOTBALL

どのような人がどのように関わっているのか知ってもらいたいそんな思いから生まれました

フットサル委員会運営部会員 辻 誠 さん

運営スタッフ Q&A

Q：運営スタッフに応募した動機について？

A：東京都サッカー協会の HP 記事を見て、活動内容に興味を持ちました。中身を見て自分でも活動し活躍できそうだと思う応募したことがきっかけです。

Q：活動内容について？

A：主にコートにフットサル用ラインテープを貼ること、他競技の既存ラインの上からテープを貼って消すこと、ゴールやベンチの椅子を運んだり、養生シートを敷くなどです。また試合中は、ボールパーソンや試合の記録を取ります。最後にゴールなどの片付けをします。
・東京都が主催する大会やフェスティバルの運営、東京都内で行われる関東大会や全国大会の運営をお手伝いしています。



Q：マストアイテムはありますか？

A：ペン、カッター、物差し、タコ糸、ストップウォッチです。
・ペン＝記録用に。
・カッター＝ラインを切るため。
・物差し＝ラインを着る時に真っすぐに切るため。
・タコ糸＝ゴールネットが切れてしまった時のため（補修用）。
・ストップウォッチ＝時間を測る時のため。

Q：記録を取る時に注意することは？

A：フットサルは交代が自由なので、先発には○をして、交代選手には△をつけます。見逃さないよう、しっかり見ていなければいけません。

Q：当日、意識して取り組んでいることは？

A：一人ではできず、運営の皆さんと共に作り上げるものなので、コミュニケーション・相談をしながら取り組んでいます。また、感謝の言葉を口にするのを忘れないように意識しています。

Q：問題や困難への対処法などは？

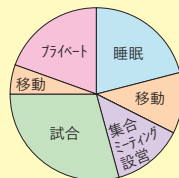
A：トラブルが起きた時には、周りのスタッフに知らせること。一人でできることも限られているので、落ち着いて考えることを心掛けています。

Q：この仕事の魅力、やりがいとは？

A：活動中は、展開が速く目まぐるしく状況が変わりますが、選手や観客の皆さんのために円滑な運営（試合）ができたときや小学生年代の試合では、お礼を言いに来てくれる子もいます。そういった時はやっていて本当に良かったと感じます。
小中学校の時から裏方の仕事をするのが好きでした。普段の仕事も社会インフラを支える会社です。なくては困るような空間にずっと身をおいているように思います（笑）。

Q：試合の日のスケジュールは？

A：月に2、3回の活動となります。



朝 5 時起床
9 時集合ミーティング
11 時キックオフ
19 時半終了

プライベート Q&A

Q：普段のお仕事は何をされているのですか？

A：電気設備のシステムエンジニアです。工場で使われるシステムの通信関係等の設計や試験をしています。

Q：サッカー経験やフットサル経験について？

A：中学時代はサッカー部、高校時代は陸上部（中距離走）、大学時代はスキーサークル（体育会系の）に入っていました。学生時代は体を動かしていた方だと思います。フットサルは会社の有志で集まってプレーしていた程度です。

Q：趣味は何ですか？

A：TV、ラジオ好きです。スポーツ観戦（サッカーやバスケ）。浦和レッズのファンなので見えています。それが気分転換になっています。



Q：最後にフットサル観戦のお勧めはありますか？

A：最上位の試合になれば目まぐるしい展開となり、一瞬も目が離せません。選手の個人技にも注目です。一体感を持って試合を楽しめることがフットサルの魅力でもあります。

辻さんからのメッセージ

運営スタッフの仕事は日当もそれほど高くありませんが、大会運営を通じて自分が出ることが広がりましたし、色々な人と出会えたり、やりがいもあります。ぜひ興味があれば我々の活動をお手伝いしていただければと思っています。



東京都フットサル運営スタッフ
TOKYO FUTSAL OPERATION STAFF

ボランティアでフットサルを盛り上げよう！一緒に試合の舞台を作ませんか？

フットサル大会の運営を手伝っていただけるスタッフを広く募集しています。
プレー経験は必要ありません。スポーツやフットサルに関わりた方、体を動かしたい方、新しい仲間を作りたい方など、どなたでも大歓迎です。
興味がある方は、QRコード（東京都サッカー協会ホームページ）をご覧ください。お待ちしております！





「連盟ニュース」では各連盟の大会結果・取り組みなどを紹介します。

2023年の東京都少年サッカー連盟事業は、4年ぶりに計画通りにスタートすることが出来ました。年間を通してのリーグ戦ではトップリーグに3部を新設し60チームで構成され、ブロックリーグのチームは3部への昇格を目指しています。

年度初めに「ハトマーク・フェアプレーカップ4年生大会」を有観客で開催しましたが、大会前の長雨で大会当日まで3日間、グラウンド整備に多くの関係者の方々に協力していただき、ぎりぎり開会式に間に合うような状態でした。昨年試行したライブ配信を今回も実施し多くの方に視聴して頂きました。7月の「M・T・M関東U-12」では、東京都選抜男女4チームが参加しました。昨年以上の猛暑が連日続く中、安全を考慮し、対策として2日目の予定試合を午前中分のみで終了し、午後の分を翌日午前中に振り替える措置を実施し無事に終了する事が出来ました。夏休みに入り、東京都選抜U-12、U-11女子は「被災地交流事業・宮城県」にて東京都2チームを含む女子6チームが参加、暑熱対策として室内でのフットサルに変更し無事に終了しました。「静岡カップ」は会場が三島から時之栖スポーツセンター裾野グラウンドに変更になり、1都8県12チーム、東京は東京都選抜U-12女子、16ブロック選抜の2チームが参加しました。東京都選抜U-12男子の「磐田国際」は、竜洋スポーツ公園ゆめりあサッカー場でJ下部チーム、海外チームなどと4日間に6試合を行い準優勝で終了しました。4年ぶりに再開した海外遠征は男女共にタイ遠征を実施し同学年、ジュニアユース年代との親善試合、地域交流、国際試合の観戦などを通して選手達にとって貴重な経験を積むことが出来たと思います。

その他の大会は予定通りの開催を予定していますが、連盟の掲げている「安心、安全」な事業運営に欠かせない事として1、暑熱対策の対応として年間行事の見直しの重要性2、「暴言、暴力の根絶」への啓発、促進を加速すべく「クラブ ウエルフェアオフィサー講習会」を指導者、保護者にも働きかける3、首都圏での登録増加に伴う各ブロックの中央大会出場枠の検討4、島しょ部チームの参加5、合同チームでの大会参加等も含め次年度実施へ向けての検討が急務となっています。

今期は、各ブロック女子担当、女子普及コーディネーター、普及部、技術部の女子担当等で、情報を共有すること。そして、普及、育成を中心に女子選手強化、交流会等を実施すると共に、女子指導者、女子審判員、ユース審判員の発掘、育成も実施します。

オフィシャルサイト

<http://www.u12tfa.jp/>



8月3日(木)に、駒沢屋内球技場にてU12とU15の「TFFフェスティバル選抜招待大会」を開催いたしました。U12は今回が初開催でしたが、選抜招待大会に向けた選考会にはU12リーグ参加チームから60名弱の選手が参加してくれました。その中から選抜した33名を、所属エリアごとに分けた2チームに編成し、神奈川県U12選抜と2試合(12分ハーフのプレーイングタイム)を行いました。結果は2試合とも負けてしまいましたが、非常に良い経験をしてもらえたのではないかと思います。今後トレセン活動は継続して行っていく中で、少しずつU11、U10と学年別トレセンも実施できればと考えています。

U15は、神奈川県U15選抜・埼玉県U15選抜を招待し、交流を深めました。U15リーグ所属チームから、「第1回関東U-15フットサル選抜大会」(開催:8月16日(水))に向けた選考会を事前に行った上で、チームを編成しており、このフェスティバルは実践的な良いトレーニングとなりました。今回、U12フェスティバルとU15フェスティバルを同時に開催したのは、選手が直接1つ上の世代のプレーを見ることが出来る環境を作り、中学生になっても続けたいと思ってもらえるきっかけの1つになってもらえればと考えての事でした。学校における部活動の在り方が変わっていく流れの中で、2種・3種世代の登録チーム数や登録選手数は減少傾向にあります。このような活動を継続していくことで、様々な選択肢の中の一つとしてもらえればと思います。

8月16日に開催された「第1回関東U-15フットサル選抜大会」に出場したU15選抜の結果は、初戦の群馬県との試合は、2点ビハインドの状況から4-2で逆転勝ち、準決勝の埼玉県選抜との試合にも10-3で勝ち、決勝戦でも千葉県選抜を相手に、各選手が躍動し、4-3で勝利し見事に第1回大会の栄冠を掴むことができました。前年度に開催されたプレ大会も含めると、2年連続で優勝することができました。2023年度のU15選抜の大会は、これで終了となりますが、引き続き、トレセン活動は継続して計画・実行していきます。

オフィシャルサイト

<https://tokyo-futsal.or.jp/>



東京都少年サッカー連盟

委員長

吉實 雄二



静岡カップ(女子)



タイ遠征(女子)



タイ遠征(男子)

東京都フットサル連盟

専務理事

藤森 雅義



U12North



U12South



U15選抜

事務所移転のご案内

東京都サッカー協会事務局は、6月28日(水)より以下の住所に事務所を移転しました。気持ちも新たに一層の努力を重ねてまいりますので、引き続きご支援ご協力賜りますようお願い申し上げます。

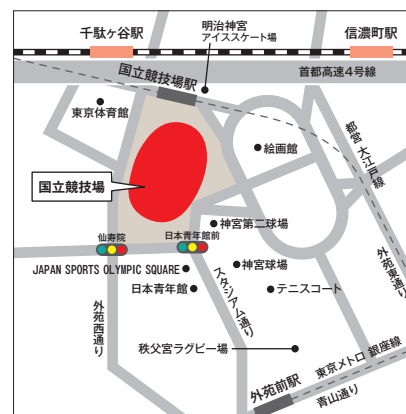
新住所

〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘町10番1号 国立競技場内
電話番号 03-6804-1301 FAX 03-6804-3822
平日 11:00~13:00/14:00~16:00

※お問い合わせはWEBフォームからも受け付けております。



WEBフォーム



国立競技場でスタジアムツアーを開催中



■国立競技場スタジアムツアー

Jリーグ、日本代表戦、天皇杯、高校サッカー、海外サッカーなど、これまで数々の名試合が行われ、サッカー関係者には特に馴染みの深い国立競技場は、「杜のスタジアム」をコンセプトに2019年に新たに生まれ変わり、2021年には東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会のメインスタジアムとして使用された。

現在、国立競技場では見て、体験して、知る「国立競技場スタジアムツアー」が行われ、スポーツ愛好者、修学旅行生、建築関係者、海外旅行客など多くの方々を訪れている(令和5年4月には来場者数10万人を突破)。

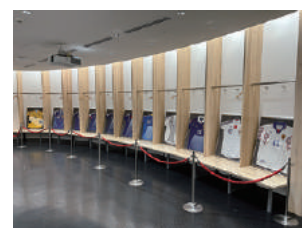
このスタジアムツアーでは、自由回遊の形式で所定のルートをおおよそ1時間かけて見学することができる。競技場のトラック&フィールドエリアでは選手が歩いた、走ったフィールド上を実際に歩く・走ることができ、選手になった気分で楽しむことができる。また、通常は選手や関係者以外立ち入ることができないロッカールームや選手がメディアからのイ

ンタビューを受けるフラッシュインタビューエリアにも立ち入ることができ、ここでしか味わうことのできない体験ができる。コースの途中には様々なコンテンツも用意され、東京2020大会で実際に使用された表彰台に登壇したり、トーチと共に撮影したりすることもでき、フォトスポットになっている。

さらに、VIPエリアを体験できるツアーや期間限定の特別なツアーも用意されており、詳細は下記のツアー公式サイトをご覧ください。

■JFA連携事業

スタジアムツアー内の人気エリアの1つに、公益財団法人日本サッカー協会(JFA)やJリーグの協力による、日本サッカー界の歴史に触れる展示コーナーがある。ここでは、Jリーグ、SAMURAI BLUE、なでしこジャパンの試合で実際に使用されたユニフォームやスパイクやボールなどが選手直筆のサイン入りで並べられている。サッカー日本代表選手の熱気を感じつつ、名シーンを振り返るコーナーとなっており、今後もJFAと連携し展示内容を変えていく予定。



左：なでしこジャパン歴代ユニフォームや2011年W杯優勝時に使用されたボール
右：ファンが選ぶベストイレブン男子日本代表選手ユニフォームの展示コーナー
(10月以降は内容を一部変更して実施する予定です)

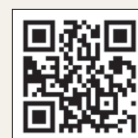
■ツアー概要

【場 所】 国立競技場 〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘町10-1

【時 間】 10:00~17:00 ※不定期開催のため開催日等詳細は下記Webサイトをご確認ください。

【料 金】 〈大人〉1,800円(税込) 〈高校生以下〉1,000円(税込) ※コンビニ決済の場合は手数料が別途発生します。

【チケット】 下記Webサイト、もしくは当日「外苑門前(Eゲート)チケットカウンター」にて購入ください

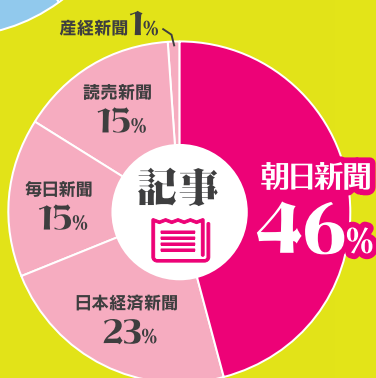
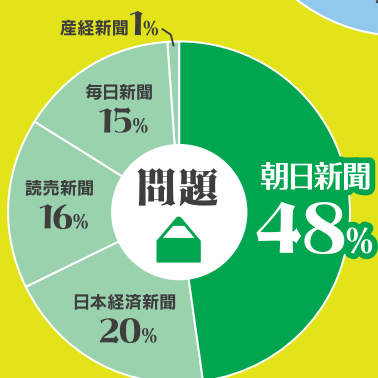
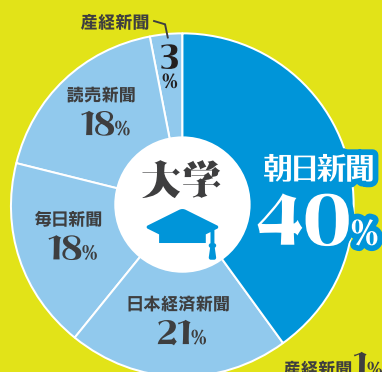


国立競技場スタジアムツアー公式サイト▶

朝日新聞は 2023年度も 大学入試出題数

No.1

全国紙の2023年度大学入試出題実績



※大学通信調べ(2023年5月31日現在)。全国の大学にアンケート調査。対象は読売新聞(読売新聞オンライン)、朝日新聞(朝日新聞デジタル)、毎日新聞(毎日新聞デジタル)、日本経済新聞(日経電子版)、産経新聞(産経ニュース)、回答数760。



朝日新聞

ご購入・お試し読み
受付時間 7:00~21:00

0120-33-0843

